

【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	つくば市家庭教育支援チーム (子育てほっとステーション・オアシス)
活動開始年度	平成18年度
活動拠点	つくば市並木交流センター
活動範囲	つくば市全域
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(学校・家庭・地域の連携協力推進事業) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input checked="" type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 (市こども課の「市内子育て支援事業の一環」の位置づけで、交流センター利用の年間予約・利用料金の減免措置を受けている)
組織体制	5 人 民生委員(主任児童委員)・元教員 1名 元教員 1名 元民生委員(中学校相談員)1名 元保育士 1名 地域ボランティア 1名
具体的な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日 10 時～12 時開催 この間は出入り自由 ・子育て中のお母さまたちの交流の場として開催。 ・ボランティアは子育ての先輩として、また、お姑さん・お母さんとしての立場を多少意識して、お母さんたちとおしゃべりをしている。 ・ボランティアがお子さんたちと一緒に遊ぶ様子をお母さんたちに見てもらいつつ、こどもと一緒に遊ぶ楽しさを知ってもらおうと考えている。 ・年三回市の保健センターから、保健師・栄養士・歯科衛生士に出張相談に来てもらう。 ・季節遊び・季節の食べ物などのミニ講座を開催。
活動を通して感じていること (成果、課題など)	☆成果 <ul style="list-style-type: none"> ・地域での子育て仲間の輪が広がって、オアシス先輩ママがママデビューの人を誘って連れて来たり、出会った妊婦さんに「オアシスに行くと良い」と声をかけて紹介してくれる。 ・育児不安を口に出すことで、周りも同じような悩みを持っていたのだと知り、安心できるお母さんもいる。 ・軽い発達障害のあるお子さんに対して、同級になる子どものお母さんたちが、事前に知るにより自主的にサポートチームを作ってくれた。 ・月齢の違うお子さんを見たり、抱いたりすることで、育児の先を知ったり、

懐かしがったりし、兄弟がいることの良さを感じるお母さんもいる。
・日本語の出来ないお母さんたちに対しても、地域の中で声掛けを行うなど、子育てのサポート以外の役割も担えている。

★課題

- ・オアシスに出て来れないお母さんに対して何ができるか？
- ・日本語も英語もできない外国人の子育て中の人へのアナウンスをどうするか。